

OTK(大阪府都市開発株)の株式売却を巡って 大阪府と堺市の1日

12月13日(金) 午前9時半、大阪維新府議団が堺市役所に来訪し、竹山市長に面会を求めています。しかし府議団が定刻に遅れたため竹山市長は10時開催の常任委員会に出席。会談は12時に変更され、約30分にわたって市庁舎で行われました。

維新府議団から「値下げを言うのであれば堺市も応分の負担が必要」と訪問目的を告げると竹山市長は「それはできない。税を出す必要がないからだ。それよりどういう資格でこられたのか」と声をあげてくる一幕も。また「80円値下げばかりに収れん(わい)化)され正確な趣旨が理解されていない」としたことについては、竹山市長から「地元の気持ちをあなたがた



堺市役所で維新府議員団と会談する竹山市長

こそ理解してほしい」と、逆に維新府議団に協力を求める結末になりました。

その日夕方、堺市長は松井府知事と府庁で会談、堺市の立場を伝えました。直接対決がテレビで報道されるとあって、急きょ堺市議会から超党派の議員が府庁に駆けつけ、竹山市長を傍聴席から応援しました。

「10円でも今までできなかった」と言い張る知事に対して竹山市長は「知事は(選挙応援の際)南区で値下げを約束したはず。それが10円とは住民はとうてい納得できない」と堺市の要望を堂々と主張しましたが、会談は平行線で終わりました。



大阪府庁で松井知事と会談する竹山市長

「住みよい堺市をつくる会」は、「どこに売るかという物差しが住民にではなくもうけにあるなんて許せない」と緊急に白紙撤回を求める署名行動を展開。16日の朝まで宣伝を繰り返して、最後の2日で約1000筆づつ積み増した3000筆を超える署名を府議会に届けました。

乗降客が多い泉ヶ丘駅周辺での宣伝では、「難波まで行くだけで520円。交通費が高いと子どもたちもバイトで断られてきた」「大阪に通院しているが往復1000円はかかる。医療費・薬代より高い」と値下げを求める切実な声があがり市民が次々と署名に応じていました。



市民とともに駅頭宣伝で訴えるげん中議員



12月16日府議会傍聴席から採決を見守る市民

府住民パワーカーが府議会を動かす



12月15日(日) 府議会直前の緊急市民集会(泉ヶ丘センタービル) 一写真提供大阪民主新報



発言する城議員



市民の手作りプラスター



米ファンド売却の白紙撤回を求めて泉北高速鉄道の泉ヶ丘駅周辺で緊急署名やシール投票にとりくむ「住みよい堺市をつくる会南区地域連絡会」の人たちと応じる市民=12月15日、堺市南区(写真しんぶん赤旗)



泉北高速鉄道は住民の財産



泉北高速鉄道の初乗り運賃は、1971年の運行開始時は北大阪急行と同額の30円でしたがその後値上げをして80年代以降は2倍になっていました。泉北高速鉄道は、利用者が高い運賃を払い続けてきたことで築いた住民の財産です。

また、泉北ニュータウン開発は、地元住民から低価格で用地買

収して、ニュータウン住民に高価格で販売して莫大な利益を上げました。ところが利益1381億円を地元に戻元することなくりんくうタウン事業などの赤字の穴埋めに充てられました。

今また、同じことを繰り返そうとしているのです。絶対に許せません。